2017年6月号 Vol.15

京都府庁 NPOパートナーシップセンター便り

特集 シラベル ～信頼と共感を支える目利き力～

さまざまな情報が氾濫している現代、地域課題を調べようとひとりでネット検索しても、知りたい情報にたどりつけず、悩んだりしませんか？調べて得た「知」を「ラベル」（見える）化し、知恵・知識として身につければ、情報の見極めができる目利き力が高まります。この「シラベル」チカラの大切さに気づいた、おふたりにお話を聞きました。

チーム・シラベル 検索

依頼と課題がつながる

2015年11月、NPO法人テダス（南丹市）の事務局長 田畑昇悟さんの元にナレッジ×DIY☆1『シラベル』（3回シリーズ）の講師依頼が届きました。

市民新聞の元記者である田畑さんへの、「調べて見える化することの重要性について伝えてほしい」という依頼は、田畑さんが中間支援組織として地域活動団体やNPOに向き合い、感じている課題とつながります。
テダスでは、助成金について地域活動団体から相談を受けることもあります。申請用紙を見ると、たとえば「少子高齢化と言われているので」と、ニュースで流れた言葉を鵜呑みにして書かれており、「ちゃんと調べて書いてほしい。これでは税金を使うに値しない」。田畑さんはモヤモヤを感じていました。

図書館、参加者との協働へ

講師を引き受けた後も、３回の講座で終わるのはもったいないと考えました。元々京都府立図書館が「協働の場づくりを進めたい」という想いを持っていたこともあり、図書館職員やナレＤの参加者と話し合った結果、地域力再生プラットフォーム☆2「きょうとフューチャーナレッジセンター～地域力向上図書館連携プロジェクト～」（通称：シラベルPF）が誕生しました。

協働調査でつながる

2016年1月、中京まちづくりフリーペーパー『マチビト来たる。』編集長の柴田歩さんは、ナレD「『シラベル』応用編」に参加しました。応用編では、与えられたテーマについて参加者がチームを組んで調べるワークをしました。出会ったばかりの参加者が調べることでつながり、ひとりで調べ物をしたときとは違う感動を得た柴田さんは、加藤彰さん（日本ファシリテーション協会 フェロー）を講師に迎えた9月開催のナレD「シラベル番外編」※にも参加しました。

シラベル番外編の様子（中央の女性が柴田さん）

区役所と大学生、区民が協働で行う『マチビト来たる。』の制作で苦心していましたが、講座に参加したことで、自身の活動を見直すきっかけになりました。シラベルスキルの必要性を感じた柴田さんは、協働調査の場づくりを考えるワークショップに参加し意見を整理するなど、調べて見える化する経験を積んでいきます。

※ 正式名「『シラベル』番外編～ロジカルディスカッションで『シラベル・チカラ』をパワーアップ～」

シラベル実践が転機に

ナレDに参加していくなかで転機が訪れます。小学校の図書室ボランティアを10年間続けてきた柴田さんは、子どもの読書離れや保護者のボランティア活動離れを間近で見ながら何もできずにいました。しかし、シラベルのナレDで学んだ、調べて見える化することを実践すると、各校の図書室ボランティアをつなぐ交流会をしたいという想いが伝わり、応援する人が現れました。助成金の申請にも挑戦、アイディアを協働コーディネーターに相談☆3しながら、充実した交流会を開くことができました。

シラベル必要性が伝わっていく

2017年2月には、シラベルPF主催で、亀岡市立図書館中央館でもシラベル講座を実施しました。
PF発足から一年が経ち、田畑さんは、手応えを感じています。講座参加者からも、「短時間でこれだけ調べられるなんて」との感想が聴こえます。最近、田畑さんは講座で必ずこう伝えます。「しっかりと調べて見える化した情報が、信頼と共感を支えます。シラベルスキルを伸ばせば解決できることはたくさんあるんです」。

田畑さんの講座スライドより

シラベルPF問合せ先: shiraberupf@gmail.com

☆1 ナレッジ×DIY（通称：ナレD）

地域力再生活動において、個人や団体、行政との連携や協働に必要な知識やスキルを、ゲストの講義から学ぶだけでなく、ワークショップを通して協働コーディネーターとともに実践的に学ぶ機会です。誰でも参加可能です。
2016年は、クラウドファンディング、プレゼンテーション、小規模多機能自治などをテーマに計14回実施しました。

☆2 地域力再生プラットフォーム

自治会やNPO、大学、企業、京都府や市町村などが、共通する課題に応じて集まり、それぞれが得意とするネットワークや知恵を活かしながら、地域の課題解決や新しい価値創造に向けた施策や協働事業を生み出し、実行に移していく場です。重点プラットフォームでは協働コーディネーターによる会議の支援なども行っています。

☆3 協働コーディネーターへの相談

京都府庁NPOパートナーシップセンター（以下 パーセン）には協働コーディネーターが在籍しています。（注：担当日は異なります。）
5人の協働コーディネーターはそれぞれ得意分野を活かし、NPOなどの地域力再生活動団体からの相談窓口となり、府庁内の部署、外部の団体への紹介などを行っています。

課長の本箱
―今、求められる哲学を垣間見る―

第十回目は、資料や情報を活用した交流の場の設置を通じて、課題解決の拠点となることをめざす、京都府立図書館 情報サービス課 是住課長から、課題解決策を模索する方は必見の、情報の活用方法についての一冊をご紹介いただきました。

～発見・創造のための情報活用術～

多様化が進み複雑さが増す現代において、これまでのやり方ではうまくいかないことが生じています。これからは他者の思考や新しい情報を積極的に取り入れることが必要であり、そこから新たな発見や創造が生まれてきます。

そのような知的生産の技法について、1969年の出版以来今なお読み継がれている本書は、当時と道具は変わっても古びることのない情報の整理活用術を伝えています。

書籍：
『**知的生産の技術**』
梅棹 忠夫 著　岩波書店（1969年）

ご紹介者：
京都府立図書館　情報サービス課　課長
是住 久美子さん

パートナーシップの芽生え
～連携が芽吹き、協働が花開く！～

本×仲間　から生まれた 大原まちライブラリー

◆読書会が始まります。
互いの様子を探りながら、おずおずと一冊への想いを、順に語り合います。広がるのは、木々の緑と空の青。笑い声。次第に緊張もほぐれ、熱い議論も聞こえてきます。何でもなかった一冊の本が、今日この日の想い出として、大切な一冊に変わる瞬間。

主催のむすびらきスタッフも読書会の輪のなかへ。本への愛情が伝わる、あたたかなまなざし。会話も弾みます。

里山ギャラリーレモンハウスに、笑い声が響く第3日曜日。この日は、大原石窯マルシェの日。自分で焼いた石窯ピザをほおばったり、外へ本を持ち出して、豊かな自然のなかで読書を楽しんだり。誰もが、思い思いの時間をのんびりと楽しみます。晴れた日は、まちあるき。地元の方とおしゃべりしながら、大原の自然や歴史を学びます。

◆寄贈された本や家具たちが並ぶ、大原まちライブラリー。長い年月をかけて本を大切にしてきた寄贈者の想いが、じんわりと伝わる空間です。

大原まちライブラリー
住所：京都市左京区大原来迎院町118番地
　　里山ギャラリーレモンハウス内
連絡･アクセスは→ 大原まちライブラリー 検索

きっかけは、大原の住民との出会い

ひがし ひろみ
東　裕美さん
NPO法人 Civil College むすびらき 理事長
日本の伝統文化継承を目的に、定期的に勉強会や読書会を開催。

東さんは、NPO法人 Civil College むすびらき（以下むすびらき）の活動のなかで、「誰もが気軽に人と本に出会えるまちライブラリーをつくりたい」と、たまたま出向いた左京朝カフェで、レモンハウスオーナー松田寛さんはじめ大原のみなさんと出会い、意気投合。「大原の地域をさらに盛りあげよう」と、一緒に話し合いを重ね、「大原まちライブラリー」が誕生しました。

本が好き→大原が好き

東さんにとっては「本が好き」からスタートした活動ですが、大原のみなさんと協働するうちに、「大原の魅力を伝えたい」という気持ちが芽生えました。まちライブラリーのイベントでは、地元の方も含めた参加者のみなさんが、交流できるように心がけている東さん。「今後は、この交流を深め、参加者同士の関係が生まれるような仕掛けを考えたい」と語ってくれました。

予告コーナー

【今年度もやります!!】ナレッジ×DIY（通称：ナレD）

協働Co. 運営企画

†ナレD昨年度のテーマ†

「シラベル」シリーズ
「CF（クラウドファンディング）ミーティング」シリーズ
「のぞき見CF」シリーズ
「地域未来ソウゾウ会議」シリーズ
「プレゼンテーションの扉をひらこう」　etc…

竹内　理 協働Co.　NPOやまちづくりを軸とした、協働につながるテーマ（ボランティア活動など）に取り組みます。

堀部 知篤 協働Co.　プレゼンテーションのテーマを発展させるとともに、異なる分野をつなぐ協働のテーマを予定しています。

天谷 さおり 協働Co.　こどもの居場所を地域で考える企画や、昨年度に引き続き、団体の基盤強化を目的とした交流会を開催します。

永見 まり子 協働Co.　7月末頃目処に「クラウドファンディング・ミーティング2017 2nd」開催予定。詳細はパーセンHPで公開します！

西田 奈都代 協働Co.　各振興局・市町村、地域団体さん等と協働し、「小規模多機能自治」のステップを進めていきます！

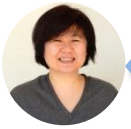
編集後記

今月号主担当　堀部 知篤　協働Co.
初の特集担当。お話を伺うなかで知ったこと、発見したことを伝える責任の苦しさ、楽しさを初体験。

今月号副担当　天谷 さおり　協働Co.
お気に入りの本は、何度も読みかえします。学びの読書の息抜きに、思い出の本を開いてみては？

吉永 一休　センター担当
うっとうしい日が着々と…カビないよう日々鍛錬、研鑽、修練etc…楽しんでいきます！

西田 奈都代　協働Co.
今年度も「地域未来ソウゾウ会議」企画に取り組みます。お楽しみに。



永見 まり子　協働Co.
ナレッジ×DIYから産まれた「シラベル」の発展が楽しみです。

竹内 理　協働Co.
4月から着任しました。毎日笑顔と元気を絶やさず頑張ります。

表紙写真について
パーセンのある旧本館1階北側の回廊。
パーセンを訪れた際は、足をとめて梅雨に濡れる中庭を眺めてはいかがでしょうか。

京都府庁NPOパートナーシップセンター便り
Vol.15 2017年6月号
発行日　平成29年6月1日
発行元　京都府府民力推進課
　　京都府庁NPOパートナーシップセンター
発行責任者　神田　浩之
〒602-8570　京都府京都市上京区下立売通
　　新町西入薮ノ内町
TEL　075-414-4212　FAX　075-414-4230
MAIL　fuminryoku@pref.kyoto.lg.jp
HP・Facebookは以下キーワードで検索
京都府　パートナーシップセンター　検索
※ 次号は平成29年8月発行予定。